

# 春日北遺跡現地説明会資料

## 1. 調査の経緯

春日北遺跡は、30年ほど前に春日集落北方の丘陵斜面から緑釉陶器の素地（そじ）や三叉（さんさ）トチン、色見（いろみ）が採集されたことによって窯跡があることがわかりました。採集された遺物は10世紀後半とみられるものです。

今回、県道水口竜王線の道路拡幅工事が計画され、未発見の緑釉陶器窯が削平される可能性が考えられたため、工事対象地について本年4月から5月にかけて試掘調査を行なったところ、窯跡が良好な状態で遺存することが確認されました。今回見つかった窯跡は、以前に遺物が採集された地点の南約300mにあたります。

本格的な発掘調査は7月から着手し、現在も調査継続中です。

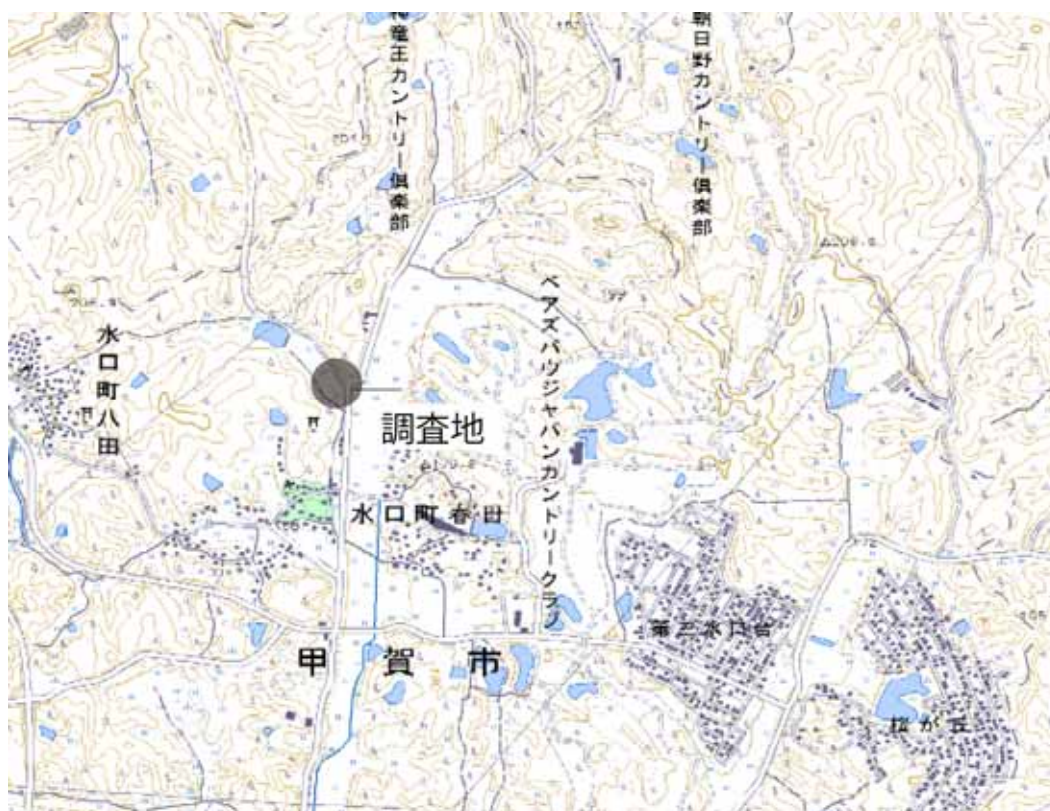


図1 調査地の位置

## 2. 発掘調査の成果

### (1) 緑釉陶器窯（春日北1号窯）

窯は丘陵裾の南西斜面に築かれています。規模は焚口から奥壁までの全長2.7m、燃烧室（薪が燃える部分）の長さ1.2m、製品を窯詰めして焼き上げる焼成室の長さ約1.5m、焼成室内側の最大幅0.9mを測ります。

焚口の前面は焼台を積み重ねて補強されており、燃烧室の底面は奥へ向かって傾斜して上がります。

焼成室の下部には3本の分焰溝と2本の分焰壁（アゼ）で炎を通す、ロストルと呼ばれる構造を備えています。

燃烧室から長さ30cmの柱状土製品が出土しました。左の分焰壁前面の底面に剥離痕がみられることから、これは分焰壁に接して立てられた燃烧室の天井を支える支柱と考えられます。このことから、燃烧室と焼成室の境の燃烧室の天井は高さ30cmと判断できます。燃烧室と焼成室は幅約20cmの3本の分焰溝だけでつながり、焚口側から焼成室へは人の出入りはできません。

窯の後部は破壊された状況で検出されました。本窯の窯詰め・窯出しは、そのつど窯の後部を壊して後ろ側から行なっていたと考えられます。

分焰壁の上には窯壁片を敷いて焼成室の床をつくっています。分焰溝を通る炎は床に敷かれた窯壁片の隙間を通して焼成室に立ち昇ることになります。この窯の壁は赤く柔らかく焼けているのにたいして、床材に用いられている窯壁片は灰色に堅く焼きしまったものであることから、この床材は近くに存在すると推測されるほかの窯の壁をはがして、本窯の床構築材として転用されたものとみられます。

焼成室の床面は焚口の底面から1.0m高い位置にあり、奥壁に向かって少し傾斜し高くなりますが、ほぼ平坦です。部分的に掘り込んで窯内部の状況を確認したところ、窯の主軸に直交して4個の焼台が並んで遺存しており、そのうちの一つには緑釉陶器がのった状態で出土しました。

窯のサイズからすると、本窯の焼成室には30個くらいの焼台を置くことが可能とみられ、仮に1個の焼台に10個の緑釉陶器が重ね置かれたとすると、1回の操業でおおむね300個くらいの製品を焼くことになります。

出土した素地の大部分は灰色に堅く焼き上げられたものです。本窯の壁の焼け具合から、この窯では硬質の素地は焼いていないと判断され、おもに素地に釉薬をかけてからの二次焼成用に使われたとみられます。本窯の近くに素地を焼いた別の窯が存在する可能性が考えられます。

### (2) 不良品の廃棄場

窯跡の後ろ側は、斜面が幅5mほどのテラス状に掘りくぼめられており、この奥側はさらに深く穴が掘り込まれています。深く穴が掘られた部分の基盤土は粘土層となっており、窯を構築するために使う粘土を採取したのかもしれない。この穴の中に

は焼き損じた不良品や窯体片が投棄されていました。

窯背後のテラスは、窯操業時に不要品の廃棄場として、また、窯詰めや窯出しの作業スペースとして使用されたとみられます。

### (3) 出土遺物

出土品の大部分は緑釉陶器の素地と、焼台・三叉トチン・色見などの窯道具です。釉薬がかけられたものもありますが、出土数は少量です。多量に出土する素地は二度焼きするために本窯にもちこまれたものの、ひび割れや歪みなどがある不良品であったため二度焼きされずに廃棄されたものなのでしょう。

本窯から出土した緑釉陶器や素地の種類をみると、ほとんどが椀・皿で占められており、壺がわずかに含まれます。

### (4) 窯の年代

今回、検出された緑釉陶器窯は、出土品の年代観から概ね 10 世紀後半代に操業していたとみられます。窯の操業期間の詳細については、今後の出土品の調査・分析により明らかにしていきたいと思えます。

## 3. まとめ

春日北 1 号窯は、燃焼室から焼成室にかけて底面が傾斜し、焼成室の下部には炎を通す分焰溝と分焰壁が備えられています。また、分焰壁と分焰溝の上にほぼ平坦な床をつくり、床の隙間から焼成室の中に炎を通して、緑釉陶器を網焼きのように炙り焼く構造であることが特徴です。

窯の規模や下部構造は日野町の作谷窯と類似しています。作谷窯では分焰溝と分焰壁の基礎部分が残っていましたが、窯が廃棄された際に分焰壁の上面まで破壊されており、窯構造の詳細は不明でした。

本窯は、焚口から焼成室までたいへん良好な状態で残っていました。その構造は作谷窯と同様に分焰溝と分焰壁を備えた他地域ではみられない特徴的なもので、近江の緑釉陶器窯の地域性を示すものとみてよいと思えます。

緑釉陶器は文字通り古代末の時代を彩った焼物でした。春日北 1 号窯の検出は、まだ実態の明らかでない緑釉陶器窯の構造の変遷や地域色をさぐるうえで重要な発見といえます。

また、本窯で焼成された緑釉陶器は平安京や地方役所などの公的施設に供給されていたと考えられます。生産地と消費地出土の緑釉陶器を比較検討し、相互の関係や緑釉陶器の流通などについて検討するための新たな資料が得られたといえます。

なお、本窯跡につきましては、現在その保存方法について検討中です。

## 【解説】

### 1. 緑釉陶器とは

緑釉陶器とは緑色の釉薬（うわぐすり）をかけて焼き上げられた陶器のことです。我が国では平安時代前期から中期（8世紀末～11世紀前葉）にかけて製作されました。

当時の国産土器の多くは素焼きのもので、釉薬を施したものとしては緑釉陶器と灰釉陶器（白色釉をかけた陶器）があります。緑釉の原料に使われる銅は貴重品であることもあって、緑釉陶器は当時の最高級品でした。緑釉陶器は平安京や地方官衙（かんが：役所）などの公的施設や寺院跡などから多く出土する傾向があり、庶民が日常的に用いるものではなかったのです。

緑釉陶器は基本的には、最初に素焼きし（一次焼成）次に釉薬をかけて二度焼き（二次焼成）して仕上げられます。素焼き段階のものを素地（そじ）と呼んでいます。

緑釉陶器は窯詰めされる時、焼台と呼ぶボタモチ状の粘土塊の上に数個ずつ重ねて置きます。

二度焼きする際には、直接重ねて焼くと釉薬が溶けて製品が溶着してしまうので、間に三叉（さんさ）トチンという三つ又状の窯道具をはさんで焼きます。

また、焼成作業時に釉薬の発色状況を確認するためのサンプルとして破片に釉を少しつけたもの（色見：いろみ）を窯に入れます。

操業に際して発生する灰や不良品がかき出されて堆積した場所を灰原（はいばら）と呼んでいます。

### 2. 近江産緑釉陶器の生産地

緑釉陶器の生産地は限定されており、京都、東海、そして滋賀県地域が三大生産地として知られているほか、山口県地域や大阪北部でも生産されていました。

近江産の緑釉陶器は10世紀前葉から11世紀前葉にかけて生産されていたと考えられています。その生産地は、野洲川と日野川の間位置する水口丘陵と、東近江市（旧八日市市）の布引丘陵に分布することが知られており、可能性があるものを含めて9カ所の遺跡があげられます。

なかでも旧甲賀郡から蒲生郡にかけて広がる水口丘陵には7カ所の窯跡もしくは窯跡推定遺跡が集中しています。これらの遺跡は平安時代中頃の10世紀前葉から後葉にかけて操業していたとみられます。10世紀末から11世紀前葉の近江産緑釉陶器窯跡は見つかっていません。

緑釉陶器窯遺跡のほとんどは、工事などの際に遺物が採集されたり、灰原が見つかったりした例がほとんどで、発掘調査によって、窯跡の状況が明らかにされたものとしては、日野町に所在する作谷（つくりや）窯跡（滋賀県指定史跡）の1基だけが知られていました。

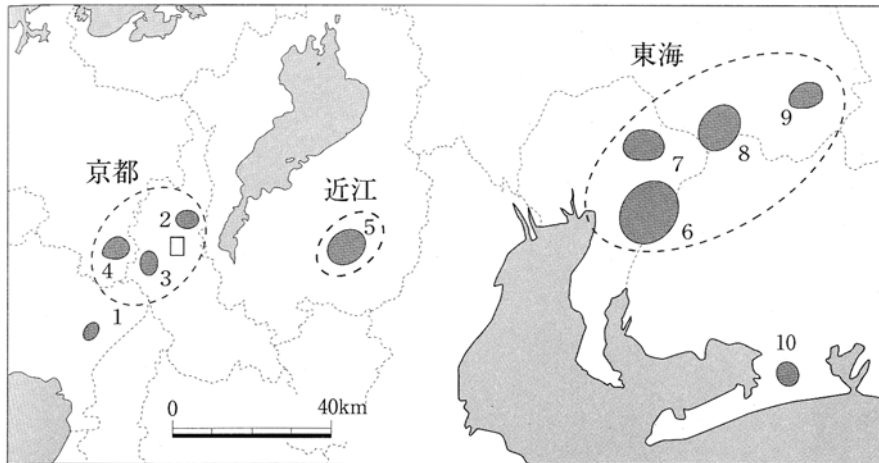


図2 緑釉陶器の三大生産地と諸窯

1. 岸辺 2. 洛北 3. 洛西 4. 篠 5. 近江 6. 猿投 7. 尾北 8. 美濃  
9. 東濃 10. 二川

(『甲賀市史』第1巻より)

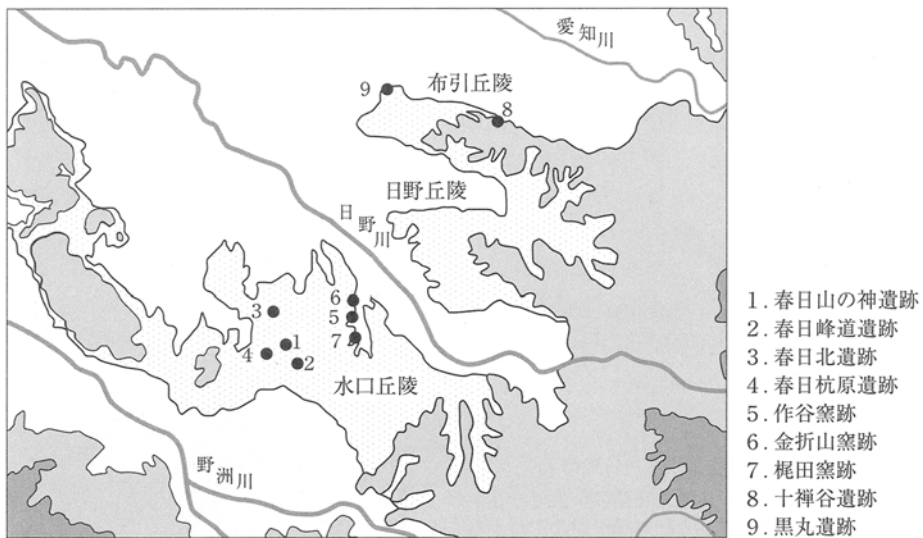


図3 近江産緑釉陶器生産窯跡の分布 窯の大半が水口丘陵に集中していることがわかる。

(『甲賀市史』第1巻より)

10世紀前～中

10世紀後

10世紀末～11世紀前

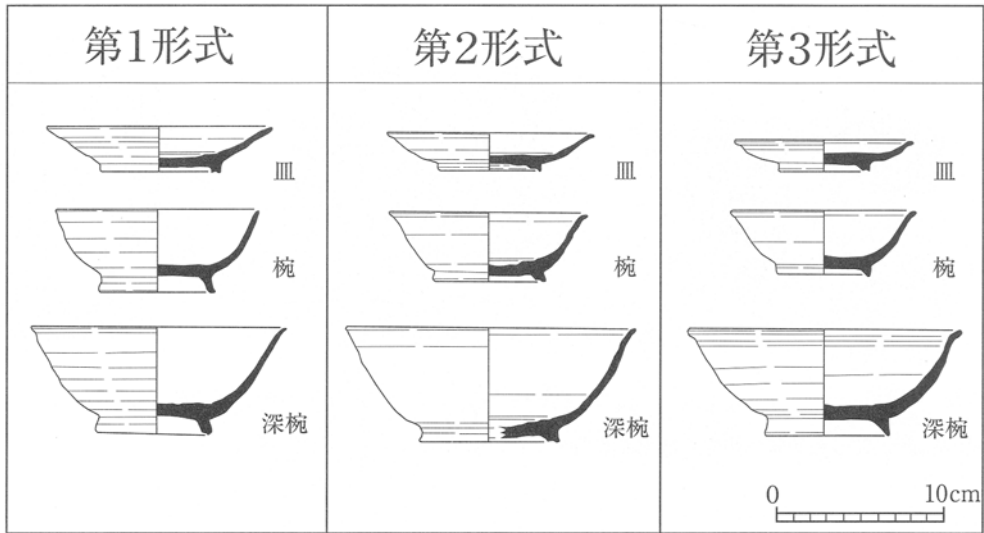


図4 近江産緑釉陶器の新旧 第1形式から第3形式へと変化する。

(『甲賀市史』第1巻に加筆)

今回春日北遺跡で見つかった窯跡(1号窯)は概ね第2形式段階にあたります。

[メモ]



窯跡全景（中央手前が窯跡、右奥が作業場・廃棄場）



窯跡（手前が焚口）



窯跡 焼成室内部（4個の焼台が並び、一番右のものには緑釉陶器がのせられています）



緑釉陶器碗・皿（左2点は緑釉がかけられたもの、右3点は素地）





緑釉陶器 壺・椀（左下は色見）



窯道具（焼台・三又トチン・色見）



【参考】 日野町作谷窯  
(『日野町埋蔵文化財発掘調査報告書 第6集』より)

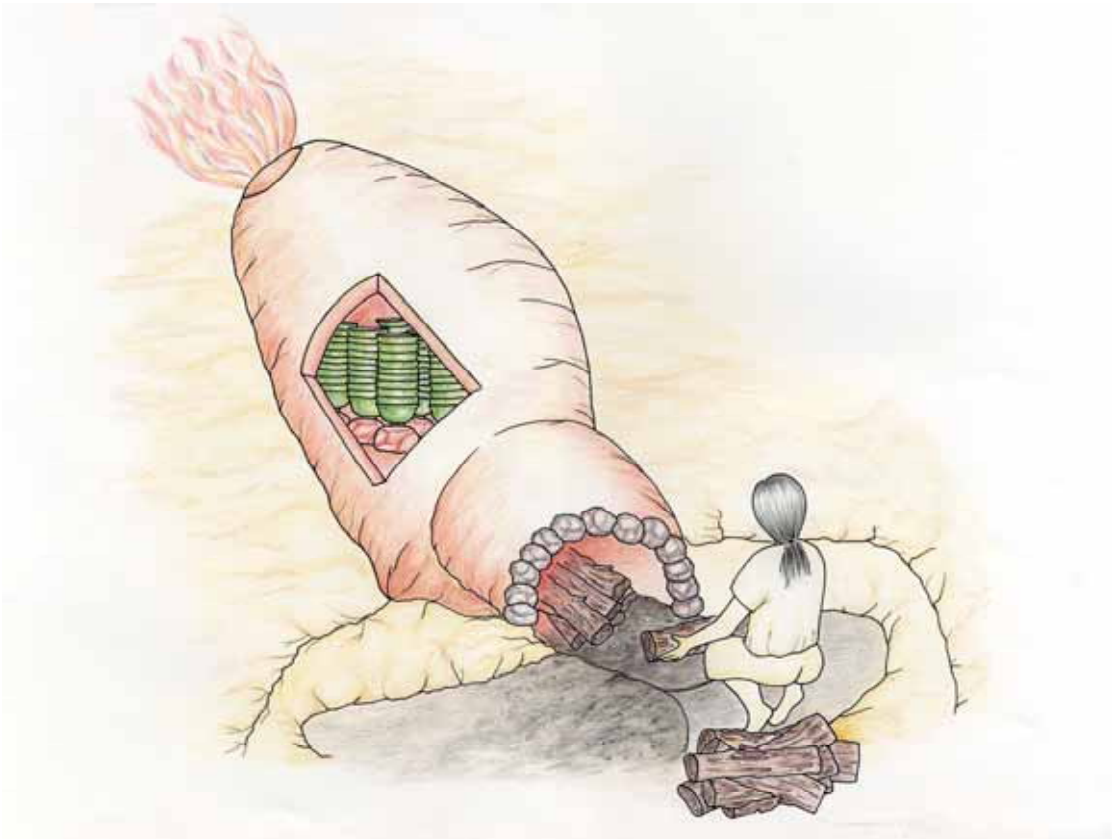


図5 春日北遺跡緑釉陶器窯(1号窯)の復元イメージ